

## 海道ノブチカ博士記念号の発行に際して

海道ノブチカ教授は、2017年3月31日をもって関西学院大学を定年によりご退職されることとなりました。海道教授は、1989年4月に関西学院大学商学部の教授として就任され、爾来28年の間、商学部および商学研究科の研究・教育、後進の育成ならびに行政に多大な貢献をされてこられました。

海道ノブチカ教授は、1971年3月に関西学院大学商学部を卒業後、神戸大学大学院経営学研究科修士課程、同博士課程へと進学されました。その後、小樽商科大学短期大学の講師、助教授および桃山学院大学経営学部の助教授、教授を経て、1989年4月より教授として関西学院大学商学部に就任されました。商学部では、経営学史、比較経営学などの講義を担当されました。2004年4月には産業研究所所長（2年間）、2012年4月には商学部長・商学研究科委員長（2年間）として行政において重責を果たしてこられました。難しい課題にも常に柔やかで穏やかなお人柄で対処、解決される姿から我々後輩は多くのことを学ばせていただきました。

海道ノブチカ教授のご専門は、ドイツ経営学であり、博士学位論文『西ドイツ経営学の展開』により、1991年に関西学院大学より商学博士の学位を授与されておられます。先生はドイツ経営学の社会科学としての体系性、法則を重視されており、ドイツの企業経営の特徴を社会経済的な背景との関連でとらえ、日本やアメリカの企業

経営との違いについて研究されてこれ、数多くの研究論文、編著、共編著、翻訳書などとともに単著4冊を出版されました。

また海道ノブチカ教授は、日本経営学会理事長、経営学史学会副理事長、日本比較経営学会理事、IFSAM2014 経営学会国際連合東京大会実行委員会副委員長、IFSAM 経営学会国際連合評議会評議員・日本経営学会代表、経営関連学会協議会評議員、経営関連学会協議会理事等々の学会役員を歴任され、学会の発展に多大な貢献をされてこれたとともに、EU インスティテュート関西副代表として、日本における欧州連合に関する教育・研究にも貢献されてこれしました。

海道ノブチカ教授のご退職にあたり、商学部ならびに商学研究科の教育、研究、行政に対する多大のご貢献に衷心より感謝の意を表し、ここに『商学論究』の記念号を刊行できますことは大きな喜びであります。最後になりましたが、この記念号の刊行に際してご執筆いただいた先生方、ならびに編集に携わっていただいた先生方に厚く御礼を申し上げます。

2017年1月

商学部長 井上達男